

① 投書を読もう「十代の声」

考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係をとらえて読み、自分の考えを書くことをねらいとしています。理解したり表現したりするうえで、考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味することが大切です。

② 投書を読もう「十代の声」

事実？ 考え？

- 次のア～エの中で、「考え」を述べているものを二つ選んで、○をつけましょう。
- ア 祖母は私の好物のおかずを作って、待っていてくれた。
 - イ 結果を見ると、五十才代以上は八十%以上の人が、「とてもすばらしい」という意味では使っていないことが示されている。
 - ウ 私たちがよく使っている言葉の中には、世代によって伝わらない言葉があるのかもしれない。
 - エ 相手に伝わる言葉づかいをこれから大切にしていきたい。

事実と感想、意見とを区別して書くことも意識させましょう。

どんな言葉がある？

○これまでに、人に伝わらなかった言葉はありますか。書いてみましょう。

(例) インスタ、リモート

文末の表現に着目してみよう。



自分が使う言葉や身の回りの言葉に関心をもつことにもつながります。

自分の考えを書こう！

「タビ」
「タビ」
「タビ」という言葉は伝わらなかったな。



○上の投書を読んで、考えたことや思ったことを書きましょう。

(例) 最近、カタカナ語がよく使われる。「やばい」のよう
年代によっては分からない言葉もあるので、相手に伝
わる言葉で話すようにしていきたい。

「私も、『やばい』など相手に伝わらない言葉は使わないように気を付けようと思う。」なども正解です。例に示したように、投書に書いてある内容から、自分の体験を振り返り、それを基に自分の考えを書くこともよいでしょう。